

2012年 11 月 26 日

2012年度採択 研究の国際化推進プログラム 研究成果報告書

採択者 (研究代表者)	所属機関・職名：先端総合学術研究科・教授 氏名：立岩真也
研究課題	ポストGCOE<「生存学」創成拠点>・生存学研究センターのHP他の多言語化のさらなる推進

I. 国際的研究成果発信の目的・意義の概要

今次の国際的研究成果発信の目的・意義について、概要を記入してください。

1) 2011年度で終了するGCOE「生存学」創成拠点を継承し、活動を継続・展開するHP (<http://www.arsvi.com>) の多言語化（英語・韓国語・中国語）をさらに推進する。当該HPは、年間アクセス数が1100万件を超え、国内では唯一のものである。それを引き続き海外にも広げていく。当センターでは社会学や哲学をはじめ、多様な研究分野の学者が参画し、様々な身体の状態を有する人、状態を経て生きていく人たちの生の様式・技法を知り、人々のこれからの生き方を構想し、あるべき社会・世界を実現する手立てを示すことに取り組み、HPを介した成果発信を推進している。こうした機関は世界になく、本センターからの研究成果等の情報は、世界で求められている。また、文部科学省からもGCOE事業終了後も国際的に卓越した教育研究拠点としての継続的な教育研究活動を自主的・恒常的に行なうことを求められているため、2012年度も引き続き多言語化を推進する。これまで当該HPに係る英語、韓国語、中国語の翻訳を進めてきた。またそれと連動させ、2011年度は英語メールマガジンを計25号、韓国語メールマガジンは計12号発行した (<http://www.arsvi.com/a/em.htm>)。

2) 1) の活動の結果、イタリアのベルガモ大学人間科学部人間科学・健康・病気学際研究所、韓国国際障害学学会、京畿道支援技術研究支援センター、ならびにアメリカのクラーク大学と学術研究交流覚書を締結した。今後も多言語化を進めることで学術研究交流覚書の更なる締結ならびに研究交流の増加が予想される。

3) 2011年度から年2～3号刊行を視野に入れ、英語を主要言語とする多言語ウェブジャーナルを刊行しており、2012年度も継続する。さらに生存学研究センターのHP (<http://www.ritsumeai-arsvi.org/>) では、若手研究者の研究を紹介する「研究の現場」を毎月日英両方作成しており、2012年度も継続する。

以上の活動のために翻訳等を担ってもらえる人材に対して支払う経費が必要となる。その人的体制はCOEの5年間で整えられており、助成を受けられれば成果はあがる土壌はすでに整っている。

II. 国際的研究成果発信の成果と今後の展開計画の概要

今次の国際的研究成果発信で得られた成果と今後の展開計画について、概要を記入してください。

主な成果

◇センター関係者の著作の英語頁、センターの主催・共催企画の英語頁、「障老病異」のうち、「青い芝の会」の歴史、医療・福祉制度の歴史などの英語頁などを作成。

◇英語版メールマガジン12号、韓国語版メールマガジンを5号配信。当方と研究交流を実施している英国リーズ大学障害学センターが運営するメーリングリストに英語のメールマガジンが毎号転送（紹介）され、センターの知名度が高まるとともに読者層も広がっている。

◇「研究の現場」の日英頁を毎月作成し、若手研究者の研究紹介ならびに国際発信を行なった。

今後の展開計画

◇英語／韓国語 HP コンテンツの更なる充実とメールマガジン、Twitter の読者の増加。

◇オンラインでの提供を主とする国際雑誌『Ars Vivendi Journal』3、4号の刊行（2012年度内）。

◇イタリア・サレルノ大学との学術研究交流覚書締結（2012年度内）。